横浜天声キリスト教会　週報　第17巻50号（No.670）　2022年12月11日

礼拝プログラム　※主の導きにより変わる事があります

黙祷　黙示録22:20 ・・・・・　御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
*賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105番　ひさしくまちにし
*交読文　・・・・・・・・・・・・・・・・ 54番
*使徒信条　・・・・・・・・・・・・・・会衆一同
*頌栄　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107　永遠の門ひらけ
礼拝のための祈り　・・・・・・・ 成田エクレシア：朴執事　天声：小林伝道師
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104番　久しく待ちにし
メッセージ　・・・・・・・・・・・・・・ 特別な形で主と出会える人の性質(ルカ 2:8-20)
御言葉を適用する祈り　・・ 会衆一同
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110番　きよき調べ
幸せと成功の宣言文 ・・・・ 会衆一同
献金感謝の祈り　・・・・・・・・ パスター
報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・
*主の祈り　・・・・・・・・・・・・・・ 会衆一同
*祝祷　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ パスター

天声教会は

・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。（ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5）
・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。（ローマ 10:10）
・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。（ローマ 10:10）
・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。（第二テサロニケ 3:5）

祝福の御言葉（下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい）

「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、____に伝える。きょうダビデの町に、____のために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。____は、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。
それが、____に与えられるしるしである」。するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒になって神をさんびして言った、「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう____に平和があるように」。御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、____は「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。そして急いで行って…、飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた・・・。彼らに会った上で、この子について____に告げ知らされた事を、人々に伝えた。____は、見聞きした事が何もかも____に語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。（ルカ 2:10−20）

メッセージ概要

赤ちゃんとして来られたイエス様は、ひそかに、人々にあまり知られない形で来られた。そのイエス様に礼拝を捧げる、という特別な経験ができた人達は少数で、羊飼い達もその内にいたが、彼らは天の軍勢から直接知らせを受けるという更に特別な幸いにあずかれた。その栄誉にあずかれる性質とは一体何だろう。

羊飼い達は夜、人々が眠っている時でも目を覚まし、羊たちを見守っていた。彼らは羊と共に生活するため野宿を続けており、不潔であるため、人々は羊飼いはしたがらず、商売人になったり、王宮で仕えたり、より楽で華やかな職へと就いて行ったが、彼らは人としては数えられず、住民登録にも呼ばれなかった。
しかし、御使いたちから直接、素晴らしい喜びのしらせを受けられたのは、この羊飼い達だった・・・。
御使い達はなぜ、彼らに現れたのか。実は、彼らの性質が、御使いたちを引き寄せる性質だったのである。
主はペテロに、わたしを愛するなら、わたしの羊を飼いなさい、と命じられたが（ヨハネ 21 章）、弱く愚かな羊を養うのは、主の御心である。なぜなら主は、まことの羊飼いだからだ。御使いは、主を恐れる人の周りに陣を張って守る存在であり(詩篇 34:7)、救いを相続する人々に仕える霊である(ヘブル 1:14)。つまり彼らは日夜、主を恐れつつ、弱く愚かな羊を日夜養っていたため、救いを相続する資格を得ていたのだ。

羊は、自分で身を守る術は無く、近視眼で迷子になりやすい。自分で食べ物を見つけられないため、羊飼いが牧草地や水のほとりへ導いてやらなくてはならない。彼らは強情で、時には羊飼いに怒って体当たりして来る。どこでも汚物を垂れ流し、自分の毛につけたまま歩くため、臭い。学習能力が弱く、同じ失敗を何度も繰り返す。また、悪い獣に狙われ易く、羊飼い達は、杖や鞭、石投げで悪い獣から守らなくてはならない。そんな面倒臭い仕事など、人はしたくないものだが、されど羊飼いは、聖書的には重要な職業である。アベル、アブラハム、イサク、ヤコブ、モーセ、ダビデ、彼ら信仰の父達は皆、羊飼いを経験して来た。
羊は、弱く愚かかもしれないが、主への捧げものになれる数少ない動物である。羊はひずめが分かれており、反芻（咀嚼）するため、きよい動物とされている(レビ記 11 章)。「反芻」とは、食物をハムハムと噛む事で、主は、それをきよい性質とされた。ひずめは、自身と世との間に境界を引いて一線を画するものである。
羊のような人であっても、世と一線を引かせ、まことの食物である御言葉をハムハムさせるなら、彼らを立派な主への捧げ物とする事ができる。そのように日夜労を負う「羊飼い達」に、主は特別に出会って下さる。

彼らはその夜も羊たちを見守っていたが、突如、御使いが現れ、きょう、ダビデの町で、救い主がお生まれになった、と聞かされた。ダビデの町といえばエルサレムを思い浮かべるが、ミカ書によると、メシヤはベツレヘムで生まれる、と書いてある。彼らは**①御言葉に精通していた**ため、聖書どおりベツレヘムへ行った。彼らは普段から御言葉を摂り入れ、**②主から示されたならすぐに行動する性質**だった(15-16 節)。
彼らは、博士達のような高価な捧げ物は持って行けなかったものの、**③「御声に聞き従い、すぐに行動する」という、雄羊の脂肪にも勝るいけにえ**を捧げた(1サムエル記 15:22)。 さらに彼らは、**④主から伝えられた事を、そのまま正確に伝える性質**だった。『*この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた*（ディアグノリゾー：正確に報告する、徹底的に知らせる）。』(17 節)　お告げ通りすぐに行動した彼らは、ついに幼子イエス様と出会う事ができた。彼らは、見聞きした事が全て神のことば通りだったため、大喜びで神をあがめ、賛美しながら帰って行った（20 節）。彼らは**⑤いつも主を喜び、賛美する性質**だったのだ。

主と内密に、そして誰にも体験できないような特別な形で親密に出会える人とは、羊飼い達のように、夜の時代であっても霊的に目を覚まし、羊たちを、捧げ物として捧げられるまでに養う誠実な人であり、また、普段から御言葉を摂り入れて、御言葉に精通し、そしていざ、主から直接示されたなら、すぐにそのまま行動して、主から伝えられた言葉を、正確に伝え、そして、主のわざを喜び賛美する、そのような性質である。また、羊のように世と自分とを分離し、御言葉をいつもハムハムしているなら、主からは「きよい者」と見られ、主に捧げられる者となる。そのような性質であるなら主はプライベートに特別な形でご自身を表して下さる。それは王宮のような華やかな所で生活したい人にはあずかり知れない、密かに与えられる輝かしい喜びである。このアドベントの時期、誠実に主を仰ぎ望みつつ、日々ふさわしく歩んで行く私達でありますように！

お祈りしていただきたい事がありましたら、以下にお書きの上、教会へお持ち下さい。

集会案内

主日礼拝（日曜）

日本語礼拝	礼拝 11:30
English Service	15:00

日々の集会

月～金　早天祈祷会	5:00～
火・木・金　賛美と祈りの集会	13:00～
火～木　夜の祈祷会	19:00～

水曜礼拝

1 部	13:00～
2 部	19:00～

金曜祈祷会　19:00～

各礼拝はインターネットでライブ中継しております　→　youtube.com/c/横浜天声キリスト教会

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6 番 B 出口を出てまっすぐ徒歩 5 分
JR・関内駅より徒歩 10 分
京急線・日ノ出町駅より徒歩 10 分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1F がファミリーマートになっております。

聖書メッセージをメールでお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！

第 17 巻 50 号　　2022 年 12 月 11 日

横浜天声キリスト教会

礼拝　週報

〒231-0058　　パスター：　林和也　川合ゆきえ
神奈川県横浜市中区弥生町 2-17　ストークタワー大通公園 I-201
TEL/FAX： 045-326-6211
Homepage： http://voice.of.christ.yokohama/
email： ephes_03-tensei@yahoo.co.jp